



spark SL

ラージダイアフラム・スタジオ・コンデンサー・マ
イクロフォン

をお買い上げ頂きまして誠に有り難うございます。

この度はBlue Microphones Spark SLをお買い上げ頂きまして誠に有り難うございます。ソリッドステート・コンデンサー・マイクSpark SLは、あらゆる環境でプロフェッショナル・クオリティのレコーディングを実現します。高品質のパーツのみを厳選したユニークでスタイリッシュなデザイン、レコーディングへの情熱とインスピレーションを更にかきたてるアコースティック・サウンドを再現します。

Blue独自設計のコンデンサーカプセル内蔵、クラスAディスクリート回路を採用し驚異的な音質でのレコーディングを可能にしています。

更に、Blueカスタムデザインのショックマウントと、スタイリッシュで保管や移動に便利なウッドケースが付属します。

Spark SLはクラスAディスクリート回路に加えて電磁干渉を抑えたトランスフォーマーレス出力により、ダイアフラムに到達したサウンドが電子エネルギーに変換された後に限りなく正確に増幅されます。更に20dBの減衰パッドおよび100Hzのハイパスフィルターを装備し、驚異的な緻密さでディテールを鮮やかに再現します。ボーカル、ドラム、ギター、ピアノ、金管楽器、木管楽器などをはじめとする、あらゆる音源に理想的に対応します。

Spark SLをご使用になる前に本書をよくお読みください。Spark SLの機能や取り扱い方法、レコーディングテクニック、ご使用の上での注意などを理解した上で本書に従い使用し、またより長くお使い頂くために、適切なお手入れを随時行ってください。



Spark SLにはマイクを低周波の振動ノイズから保護するためのカスタムのショックマウントが付属します。Spark SLは48Vのファンタム電源供給により動作し、主要なオーディオインターフェイス、ミキサー、マイクプリアンプで使用可能です。オーディオ部品の損傷を防ぎ最適な状態でお使い頂くために、まず以下の手順に従い使用環境を設定してください。

- マイクプリアンプのゲインを「オフ」またはゼロに設定します。
- ご使用になるDAWまたはミキシングコンソールの入力チャンネルをミュート（消音）します。
- バランスXLRマイクロフォンケーブルのメス側の端子をSpark SLの出力端子に接続します。オス側の端子はマイクプリアンプの入力端子またはミキシングコンソールのバランス入力端子に接続します。
- ファンタム電源をオンにします。
- シグナルパスにミュート（消音）されている箇所があればミュートを解除し、マイクプリアンプのゲインを必用に応じて調節します。

Spark SLの極性は単一指向性で、カプセルの前面のシグナルを拾いオフアキシスのシグナルは排除されます。Spark SLをマイクスタンドに設置し、カプセルの前面（Blueロゴのある側）を音源に向けてからマイクの電源をオンにします。20dBの減衰パッドは高速トランジェント、高SPLの音源に対応しスネアドラム、タム、エレキギターアンプ、パワフルなボーカルなどの収音にも最適です。キックドラムやベースアンプなどの低音楽器を録音する場合を除いて、一般的には100Hzのハイパスフィルターを有効にして、振動や低周波によるランブルノイズを除去しレコーディングのヘッドルームを確保します。

レコーディング・アプリケーション

Spark SLはあらゆる種類の音源を理想的に録音できますが、最良の音質で録音を行うには、適切なマイキング・テクニックが重要になります。以下のセクションでは音源の種類別にSpark SLを適切に設置する上での基本的なマイキングのテクニックを解説します。

ボーカル



音楽業界では周知のことですが、ボーカリストはマイクロフォンの見た目の善し悪しでパフォーマンスに差が出る場合が多いため、Spark SLのような洗練された美しいデザインでインスピレーションを刺激し意欲を高めることも重要です。Spark SLは単一指向性で正面（Blueロゴのある面）からのシグナルを收音します。唇から2.5 - 30センチ離れた位置にマイクの正面と対面するよう設置します。マイクと唇との距離が短くなるほど、プレゼンスが強く親密なサウンドになります。「ビッグ」でプレゼンスを最大に強調するには、マイクカプセルを唇から2.5 - 7.5センチの位置まで近付けます。必用に応じて100Hzのハイパスフィルターを有効にし、振動や低周波によるランブルノイズを除去しレコーディングのヘッドルームを確保します。ロックやポップスなどボーカルの生き生きしたサウンドをキャプチャーするにはマイクを音源から離れた位置に設置します。マイクの正面を上向きに傾けると、ヘッドトーンが強調されよく通るトーンになり、マイクを唇に近接させると鮮やかで明瞭なトーンになり、マイクを下に向けると低音の迫力が増し高域が滑らかになります。

アコースティック・ギター



ギターの収録にはSpark SLをギターのネックとボディのジョイント（12フレット～14フレット付近）の前に設置しカプセルをネックに向けると、バランスのとれたサウンドになりきらびやかなトップエンドが得られます。ギター・レコーディングの経験が浅い場合は、マイクをギターにできるだけ近付け、マイクカプセル（ヘッド部分）をサウンドホールに向けてマイクを傾けると低音が強調されピッキングノイズが軽減されます。重低音を更に効かせるには、マイクをサウンドホールに近付けます。ディテールを重視する場合は、ギターからマイクを遠ざけますが、この時、マイクの位置をネック部分か、もしくはマイクをギターの上（ギタリストの頭の上）に設置します。アコースティック・ギターのサウンドをリッチで艶やか、重厚なトーンにするには、同じフレーズを二度（またはそれ以上）、それぞれ異なるトラックに録音するダブルトラックと言うテクニックを使います。また、各トラックで音を左右に振り分け、音の定位を調整するパンニングも有効な方法です。必用であればハイパスフィルターを有効にして、振動や低周波によるランブルノイズを除去しレコーディングのヘッドルームを確保します。

エレキギター



カントリーやジャズなどのジャンルでは、エレキギターのクリーンなサウンドが要求されます。Spark SLのカプセルがスピーカーのコーンの中心を狙うように設置すると高域が強調され、コーンのエッジを狙うように設置すると低域が強調され、豊かなサウンドになります。ロックやメタルなどのジャンルで使われるディストーションやオーバードライブなどの歪み系のトーンは、Spark SLをアンプの近くに設置し、マイクをコーンのエッジに向けます。ハイパスフィルターと20dBの減衰パッドはそれぞれ、必用に応じて有効にします。Spark SLをアンプから30センチ以上遠ざけると、ルームノイズが加わることでトップエンドがソフトになり、より生き生きとしたサウンドになります。

ドラム



Spark SLの特徴である高速トランジェント・レスポンス、歯切れの良い高域、ハイパスフィルターはドラムのレコーディングに最適です。ドラムキットやハンドドラムに

はリムまたはフープ（ヘッドをシェルに固定している枠の部分）から5-10センチくらい上方にマイクを設置します。アタック音を強調するには、カプセルの正面をドラマーの手元またはドラムスティックに向けます。カプセルをシェルに向けるとハンドドラムのシャープなアタック音を柔らげ、またスネアの明るくきらびやかなバズ音を拾います。必用に応じてハイパスフィルターや20dBの減衰パッドを有効にします。ドラムにマイクを近づけると、低音とシェルのレゾナンスが強調され、その他の音源からの距離感が増しますが、更に距離を広げると、ドラムが周囲に溶け込んで空気感と一体感のあるサウンドになります。

サクソ、フルート、リード



ソプラノ・サクソ、クラリネット、オーボエなどの收音には、Spark SLをボディの中心部分から一番下のパッドとの間にあるキーの正面で真上に設置します。必用に応じてハイパスフィルターを有効

にします。Spark SLを楽器のボディに沿って上下に移動させて、バランスを調整しますが、マイクがマウスピースに近付くほど空気感のある高域が得られ、反対にベル側に移動すると中域が強調されます。フルートでは全体の長さの中央部分の真上にSpark SLを設置し、マイクをマウスピース側に移動させて調整します。マウスピースに近付くほど高域が強くなり、プレス音が強調されます。サクソと同種の管楽器では、ベルの終端部分の前に10—15センチ離して設置してからバランスを調整します。Spark SLのカプセルを上に向けマウスピースを狙うと、空気感、明瞭度、高域が増し、カプセルを床方向、下向きでは低域が強調され、管自体から出る中高域のざらつきを抑えます。

ピアノ



ポップスやジャズのピアノ演奏を収録するには、一般的にグランドピアノの中に2本のマイクを配置します。ハンマーの近くに配置すると明瞭で歯切れの良いサウンドになり、ピアノ本体の中心部分に配置すると共鳴音が増し自然なトーンが得られます。この方法で収録する場合はステレオマッチング済みのステレオペアのマイクロフォンを使用し、片方は高音弦のサウンドを、もう一方は低音弦のサウンドを拾うようマイクロフォンのカプセルの向きを調節します。

バイオリン、ビオラ、チェロなどの弦楽器



弦楽器を収録する場合、特にバイオリンは録音する部屋的环境が重要なポイントとなります。バイオリンは明るさの強いサウンドになりがちのため、ライブな部屋では響き過ぎて耳障りな場合があります。部屋の自然な残響音を軽減するために壁にカーテンやブランケットを吊ります。室内の録音環境が整えば、弦楽器のブリッジ部分の前から30–60センチ離れた位置に設置します。バイオリンまたはビオラを收音する場合は、演奏者の真上にSpark SLを配置し、カプセルを楽器のブリッジの方へ向けます。高音が強過ぎる場合は、Spark SLを楽器のFホールから遠ざけ側面近くに向けます。複数の弦楽器を收音する場合は、マイクを楽器の前の真上90—180センチの高さに設置し、カプセルを演奏者の方へ向けます。各楽器の録音にムラが出ないように、各演奏者とSpark SLとの距離が一致していることを確認します。

アコースティック・ベース、エレキベース



アコースティック・ベース（アップライト・ベース）とエレキベースでは全く異なるマイキングが要求されますが、Spark SLではどちらの楽器でも最良のサウンドを得られます。アコースティック・ベースでは、ベースから20–45センチ前方にSpark SLを設置し、低音域と弦のアタック音をバランスよくキャプチャーできるよう、カプセルをブリッジとフィンガーボードの間に向けます。弦のアタック音を軽減し重低音を強調するには、Spark SLをベースから7–20センチ離して設置し、カプセルはブリッジとテールピースの間あたりを狙います。アコースティック・ベースを收音する上で最も重要なポイントは、演奏しながらベースの音を確認し、用途やベース自体の特徴をふまえてマイクの位置を決めることです。

エレキベースを收音する場合は、広いスペースで演奏することが重要です。ベースアンプが発する音波はその他の楽器に比べて長いため、音波がサウンドを生成する過程で相応なスペースが必用です。Spark SLはスピーカー・コーンの中心部分から5–30センチ離して設置します。滑らかな低音でパンチをあまり効かせたくない場合はSpark SLのダイアフラムをコーンの中心から縁の間に向けます。必用に応じて20dBの減衰パッドを有効にします。

SPARK SLでステレオ録音する

Spark SLマイクロフォンはステレオ録音にも最適に使用できます。ステレオ録音はアコースティック・ギターの演奏からオーケストラまで、さまざまなシーンで最もよく使われる録音方法で、臨場感あふれるリスニング体験を提供します。

ステレオ録音は人が左右の耳で音を聞くのと同様のメカニズムに基づいた收音方式です。人間の耳は左右の收音方向の開きが約110度あり、これにより立体的に音場を認識し音源定位が可能になります。ステレオ録音では2本のマイクを90度から180度の角度で組み合わせて使用するか、または2本のマイクで同一の音源を2方向から狙います。2本のマイクの向きが異なるため、残響音や各楽器の音像再生に優れているのは言うまでもなく、まるで自分の耳で聞いているような空間の広がりとお行き感がリアルに再現されます。

Spark SLをステレオ録音に使用する方法をいくつかご紹介します。2本のSpark SLマイクを1.2 – 3メートル離れた位置でいずれのマイクカプセルも同じ音源（楽器）を狙うように配置します。2本のマイクと音源の位置が正三角形になるのが理想的ですが、一旦録音してから状況に応じて適宜マイクを移動させます。このテクニックはドラム、オーケストラ、バンドのレコーディングに最適です。

小規模な演奏をステレオ録音するには、まずSpark SLをマイクスタンドに設置します。2本目のSpark SLは逆さにして1本目のSpark SLの真上に配置し、2本のマイクの指向軸が90度を形成するようカプセルの向きを調整します。音源は指向軸の交差するポイントの前、15-60センチ離れた位置に置きます。90度より角度を広げると、それに伴ってステレオ音場も広がります。このテクニックはアコースティック・ギター、バンジョー、アップライトピアノ、ドラムなど単体のアコースティック楽器の收音に最適です。

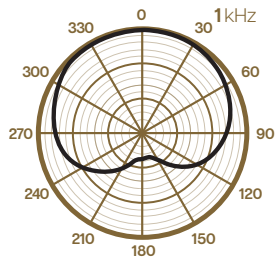
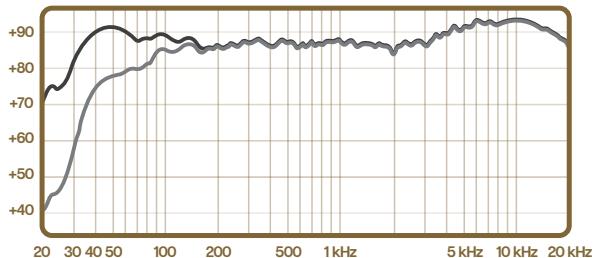
その他の用途

Spark SLは音楽の収録だけでなく、ディクテーション、ボーカルの録音、インターネット通話、ポッドキャスト等にも理想的に使用できます。自作のビデオにダイアログを追加したり、またBlueのIcicle XLR-USBアダプターやその他のUSBオーディオ変換アダプターを使用してコンピューターへ接続することもできます。

以上で解説を終了します。プロフェッショナルなクオリティでレコーディングを試してみましょう。

技術仕様

- マイクタイプ: コンデンサー/圧力傾度
- 指向性パターン: カーディオイド
- 周波数特性: 20Hz-20kHz
- センシティブィティ: 34.9mV/Pa@1kHz (1 Pa=94 dB SPL)
- 出カインピーダンス: 50 Ohm
- 定格負荷インピーダンス: 最小1kOhm
- 最大SPL: 136 dB SPL (1kHz, 0.5% THD)
- S/N比: 73 dB-A
- ノイズレベル: 16.4 dB-A
- ダイナミックレンジ: 119.6 dB
- 使用電圧: +48V DC Phantom Power
- 重量: 336g
- 寸法: 220.5mm x 45mm
- ハイパスフィルター: 100Hz, 12dB (1オクターブあたり)
- パッド: -20dB



製品の保証

Blue Microphonesは、Blue Microphones正規ディーラーにて購入されたハードウェア製品につき、正常な使用における状況下で発生した不具合に対して、製品の購入日より2年間の無償保証期間を設けております。無償保証期間内でも製品に改造や操作ミス、過度な消耗等が認められた場合や、Blue Microphonesが認定したサービスセンター以外の場所でサービスを受けたものに関しては、保証外となりますのでご注意ください。本保証には、事前に合意がない限りサービスを受けるための運送費や交通費は含まれません。Blue Microphonesは製品改良のため、予告なく製品の仕様や外観を変更する権利を有します。また製品仕様に変更が行われた場合、変更前に製造された製品に対して、これらの変更を反映/適用する義務を負いません。製品の保証や免責事項に関しては、Blue Microphones (米国 +1-818-879-5200) までお問い合わせください。Baltic Latvian Universal Electronics (BLUE) では、製品改良のため製品の仕様及び外観は予告なく変更することがあります。



設計：米国

製造：中国



www.bluedesigns.jp

© 2016 Blue Microphones. 無断複製転載を禁ず。BlueロゴはBlue Microphones, LLCの登録商標です。設計：米国 製造：中国